



今週末は高等学校教諭の採用試験が実施されます。県教育委員会のホームページでは、志願倍率が5.0倍、その内、工業学科への応募は7名と発表されていました。

先生をめざす

学校はブラックな職場だとマスコミではよく報道されます。中にはそのような学校現場もあることでしょうが、生き生きと教師生活を過ごされている先生方も数多くいらっしゃいます。

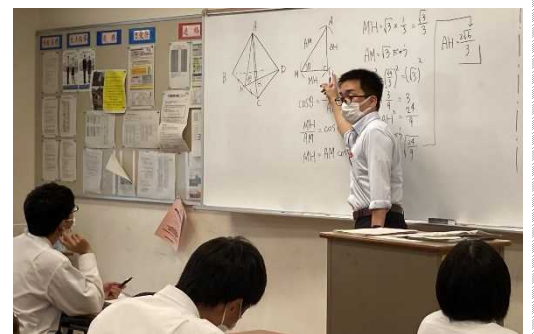
公立の学校の目的は、その地域のより良い未来を創ることであり、そのための人財を育成することが学校の目標だと考えます。つまり、教師は未来を築く子どもたちを育成しながら、間接的に地域の未来を創ることを仕事にしているのです。

バブルの崩壊以来、先の読めない社会といわれるようになりました。歴史を振り返ってみても、過去の成功事例に基づいた教育を行うことは未来において必ずしも正解とは限らないことがわかります。教師は未来の世界を想像しながら、生徒が将来必要とする能力は何かを考え、そのための教育の在り方を模索し、研修を積みながら指導・支援の能力を高め、日々の教育に携わっていくことが必要です。

教育の成果はすぐに検証できるものもありますが、数年後、数十年後に現れるものもあります。また、思考や感性など内面への影響は目に見えにくいこともあり、正確な検証には難しさがあります。

教師は大人としてのロールモデルを示しながら、やがて現れる教育の成果を信じて、生徒を社会へ送り出していきます。

米工では、今年、数学の教師を志す教育実習生を受け入れました。本校では一昨年に1名、昨年は3名、今年は2名の新規採用の教諭を迎えました。その中には本校の卒業生が2名含まれています。また、本校の卒業生がその後引き続き教員採用試験にチャレンジします。生徒の皆さんにも是非、大学で教員免許を取得し、後輩を育成する米工職員の仲間になってくれることを期待しています。特に、専門教育では先輩から後輩へとのづくりの精神を脈々と受け継いでいってください。また、工業高校には実習を担当する先生の職もあります。こちらは高等学校卒の資格があれば試験を受けることができます。我こそはと思う人は是非進路の選択肢に加えてください。皆で米工の将来を支え、米工の名を未来へと繋いでいきましょう。



研究授業での教育実習生

あなたも教師になって人財育成と地域の未来創りをライフワークにしてみませんか。

今年の採用試験にチャレンジされる皆さんからの朗報を期待しています。 校長 松川 明義



【行事予定】 6月24日(金)：情報技術検定、3年進路説明会

27日(月)～7月1日(金)：期末考査

